

平成10年度

(第2回)

中央アジア経営管理コース

実 施 要 領

平成11年2月

国際協力事業団

北海道国際センター(札幌)

目 次

1. コース名・期間等	1
2. コースの背景及び目的	1
3. 到達目標	2
4. 研修方法	2
5. 研修項目・内容・目標	3
6. 選考方法及び研修参加資格要件	4
7. 研修実施体制及び運営	5
8. 使用教材	6
9. 宿泊施設	6
10. 研修付帯プログラム	6
11. 研修の評価	7
12. 平成10年度応募、選考結果	8
付表1. 平成10年度コース研修員リスト	9
付表2. 平成10年度コース日程(案)	11
付表3. 年度別研修員受入実績表	13

1. コース名・期間等

(1) コース名

和 文：中央アジア特設「経営管理」

英 文：Business Management for the Central Asian Countries

(2) 全体受入期間

平成11年2月3日（水）～平成11年3月12日（金）（38日間）

(3) 技術研修期間

平成11年2月8日（月）～平成11年3月10日（水）（31日間）

(4) 定員・割当国

定 員：10名

割 当 国：カザフスタン(2) ウズベキスタン(2) キルギス(2) トルクメニスタン(2)

(割当定員) タジキスタン(2)

(5) 研修機関

財北海道地域技術振興センター（HOKTAC）

2. コースの背景及び目的

(1) 背 景

中央アジア5ヶ国は旧ソ連邦崩壊に伴って、経済体制の変換の必要性に直面した。これらの国々においては円滑に市場経済体制に移行すべく、金融対策等の国家による諸政策の立案とともに、国営企業の民営化、軍需産業から民需産業への転換、民営企業の育成・支援が重要な課題として取り組まれている。

我が国は、旧ソ連独立国家共同体のうち、中央アジア5ヶ国が93年に1月1日にOECD開発援助委員会（DAC）のリストに掲載されたことをうけて、ODAによる当該諸国に対する経済協力を実施することを決定した。

このような状況の下、本コースは、市場経済への移行に際し、円滑なる企業経営を推進するため、経営管理技術支援の一環として、企業経営者の人材育成を目的とし設定された。

(2) 目 的

本コースでは、市場経済メカニズムの中における経営管理、特に市場ニーズに対応した経営管理のノウハウについて、日本の企業経営の経験を紹介することによりその概念・実際を視察、研修することを目的とする。

3. 到達目標

- (1) 日本における生産性運動の役割、企業経営のあり方と経営手法について理解する。
- (2) 市場要求に応じた製品や商品を供給し、市場での競争力を養うために、企業活動をどのように展開すべきか理解する。
- (3) 生産性向上のための生産システムの考え方を理解し、その実践へのアプローチの技法や手順を理解する。
- (4) 日本における企業民営化の経験、課題、プロセスを理解する。

4. 研修方法

本研修コースは、講義、実習及び視察・見学により構成されている。

(1) 使用言語

原則としてロシア語を使用する。

必要に応じて、研修実施期間中に配置される予定の(財)日本国際協力センター所属の研修監理員が通訳を行う。

(2) 講 義

講義は午前・午後とも2.5時間単位とし、北海道国際センター（札幌）を主たる実施場所として、施設内の各種機材を活用しながら行う。

(3) 研修旅行、視察・見学

研修員が講義を通じて修得した諸理論及び手法の理解とさらには日本についての理解を深めるために北海道内外の民間企業の視察・見学のための研修旅行を実施する。

5. 研修項目・内容・目標

1. 講 義

主 題	講 義 内 容	到 達 目 標	日 数
ジェネラル オリエンテーシ ョン	a. 日本の文化と社会 b. 日本の政治と行政 c. 日本の経済	日本の社会、政治、行政、文化 に対しての概要を理解	1.0
問題意識の整理	研修員の「経営管理」に関する 共通認識の醸成とより具体化し た問題として取り組むための整 理を行う	研修課題・ポイントを絞り込む ことにより、効果的研修の展開 を図る	0.5
産 業 政 策	産業政策 海外との経済交流 中小企業施策	日本の産業政策、海外との経済 交流の現状と問題点、中小企業 施策を理解	0.5
日本の産業と 経済	市場経済下の中小企業経営 日本の中小企業指導体制 金融と税制	市場経済下の中小企業経営物流 構造、中小企業指導について理 解	1.0
経 営 管 理	経営とは 経営理論 経営戦略、組織	経営の機能を理解 企業の存続発展のために競争上 の優位性を保とうとする計画の 体系を理解	1.0
財 務 管 理	財務諸表の相互関係 財務分析 資金管理	財務分析、資金管理について理 解 円相場、株価、マネーサプライ、 公定歩合の推移について理解	1.0
品 質 管 理	品質管理の基礎的手法 TQC、TQM、QCサークル	日本式品質管理について理解	1.0
原 価 管 理	原価管理コスト低減 トヨタJIT方式 ISO9000、14000シリーズ	原価管理の基本とコスト低減方 策について理解 ISOに関する知識の習得	1.0
事 例 研 究	実際の企業をモデルに品質管理、 人材教育等についての事例研究	5S改善活動、生産性向上、人	1.0
販売とマーケテ ィング	マーケティングの考え方 マーケティングミックス エリアマーケティング マーケティング戦略	市場のとらえ方、効果的なマー ケティングの手法についての理 解	1.0
中小企業の経営 戦略	市場経済下の経営戦略を企業経 営の成功、失敗事例集で解説	市場経済下での企業経営成功の ための経営戦略を理解	1.0
現状の経済と 経営	世界と日本の経済の発展過程と 現状及び未来 産業と企業経営のあり方	世界と日本の経済と産業の歴史 と現在、未来を理解 今後の進むべき方向を理解	1.0
総 合 総 括	経営管理全般についての補足解 説と質疑応答、意見交換	本コースの実践的な適用可能性 や方法等について意見交換と専 門講師によるアドバイスを実施	1.0

2. 企業訪問 必要に応じ、専門家がアドバイスを実施

訪 問 先	訪 問 内 容	到 達 目 的	日 数
精密機械部品製造工場	品質管理と海外輸出戦略	高度な生産技術と品質管理、海外輸出戦略を理解	0.5
家具製造工場	多種少量生産	ニーズに応じた多種少量生産の仕組みと販売戦略	0.5
政府系人材養成機関	中小企業の経営者、管理者育成システム	中小企業の経営者、管理者育成のシステム、内容を理解	0.5
不凍給水栓製造工場	新製品、新技術の開発	研究開発、設計、製造から販売までの一貫体制を理解	0.5
証券取引所	株価、円相場など世界経済の動向	株価、円相場を通じて刻々変動する世界経済の流れを理解	0.5
自動車組立工場	生産管理、TQM	最先端の機械整備による合理化と生産性向上を理解	0.5
精密機器、産業機械製造工場	生産管理、品質管理、海外進出戦略	最先端の技術水準と海外進出戦略を理解	0.5
食品製造工場	品質管理 合理化	オートメーション化された生産の合理化、衛生管理を理解	0.5
ショッピングセンター	マーケティング、販売戦略と流通対策	マーケティング活動、販売戦略と流通対策を理解	0.5
電気部品製造工場	合理化、5S活動 TQC	合理化の推進と5S活動を理解	0.5
農業機械製造工場	5S改善活動、人材育成	中小企業における5S改善活動の徹底と人材育成を理解	0.5

6. 選考方法及び研修参加資格要件

1) 選考方法

割当国政府からの要請書類に基づき、General Information（英文応募要領、以下G.I.と略）に記載されている応募者の資格要件の具備程度、本人の経歴内容等をJICA、HOKTAC、北海道通産局の協議により総合的に判断し、受入可否を決定する。

2) 応募資格要件 Qualifications

- (1) 所定の手続きを経て政府が推薦した者。

- (2) 中央及び地方政府の経営政策担当者または企業の長期計画、人材開発、マーケティング、販売および資金計画等の分野で3年以上の経験と有する国営または民間企業の管理者。
- (3) 大学または商業学校卒業資格を有するか、またはそれと同等の資格を有する者。
- (4) 年齢25才以上40才以下。
- (5) 心身共に健康であること。
- (6) 軍役に服していない者。

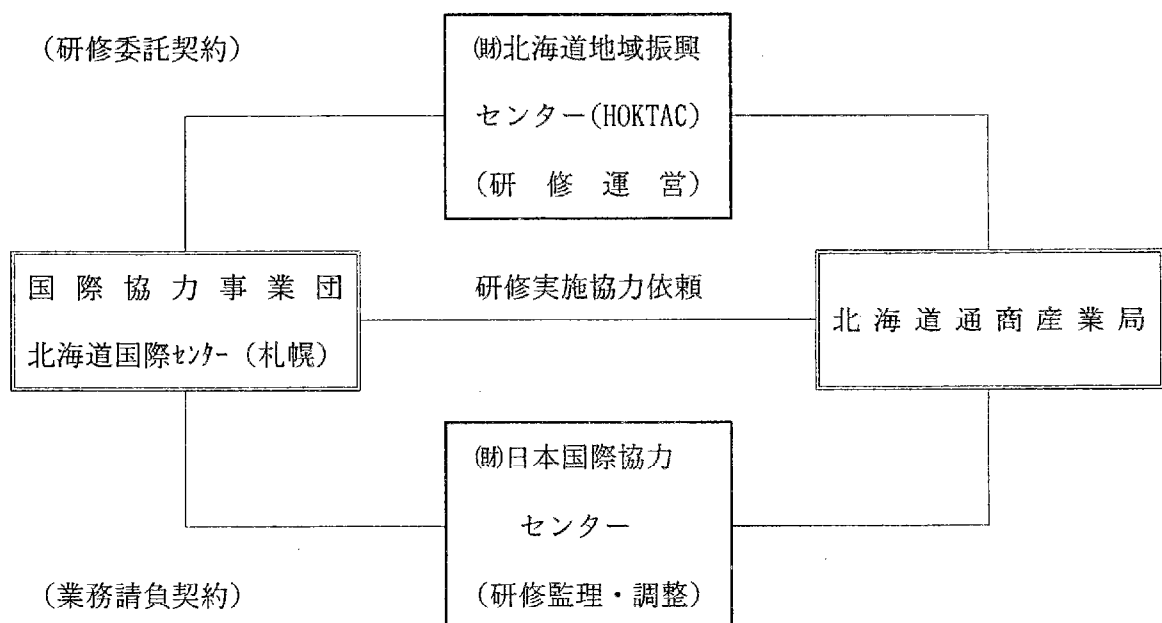
7. 研修実施体制及び運営

(1) 実施体制概略

国際協力事業団は、(財)北海道地域技術振興センター（HOKTAC）に本コースの研修運営を委託し、北海道通商産業局の研修企画・立案にかかる助言の下研修を実施する。

また、本コースの効果的運営のために研修監理業務（通訳・進行調整等）を(財)国際協力センターに委託し、研修監理員1名の配置等を行う。

これら業務の流れは以下のとおりである。



(2) 研修委託機関

(財)北海道地域技術振興センター（HOKTAC）

所在地：〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目8番地

TEL 011-716-9168 FAX 011-747-1911

(3) 研修協力機関

北海道通商産業局地域振興グループ

所在地：〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目1番1号 札幌第1合同庁舎

TEL 011-709-2311 (内)2555 FAX 011-709-1786

8. 使用教材

(1) 研修用テキスト

露文によるテキストを作成し、配布する。

(2) 研修用機材

必要に応じて、OHPやビデオなど各種視聴覚機材を使用する。

9. 宿泊施設

国際協力事業団 北海道国際センター（札幌）（略称HICS）

所在地：〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4-25

TEL 011-866-8383（代表） FAX 011-866-8382

10. 研修付帯プログラム

(1) 集合ブリーフィング

研修員の来日した翌日に、国際協力事業団が北海道国際センター（札幌）にて実施するブリーフィングにおいては、国際協力事業団の業務概要等説明、研修員登録、研修員のパスポート、ビザの有効期間の確認、支給される諸手当の説明の他、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) 開講式

国際協力事業団北海道国際センター（札幌）は技術研修に先立ち開講式を開催する。

(3) プログラムオリエンテーション

開講式終了後、コースの目的・内容・方法等につきHOKTAC担当より詳細説明の上、

周知徹底をはかり、あわせて研修員の要望等も把握し、実施運営の円滑化に資するため、プログラムオリエンテーションを実施する。

(4) 一般オリエンテーション

日	程	内 容
2 / 5 (金)	10 : 00 ~ 12 : 00 13 : 00 ~ 15 : 00	日本の社会と日本人 日本の経済

(5) 閉講式

国際協力事業団北海道国際センター（札幌）は、本コース終了後、閉講式を開催し、各研修員に研修修了証書(Certificate)を授与する。

11. 研修の評価

(1) 評価の目的

本コースの実施状況を明確に把握するとともに、コース目標に対する研修成果を明らかにし、改善すべき点について検討する。

(2) 評価の方法

最終評価会（研修日程終了日）にて、研修員は研修効果、研修内容の自国での適用性等に関する意見の発表を行い、研修員側からのコース評価を明らかにする。

本評価会は、HOKTAC、北海道国際センター（札幌）により実施され、研修実施関係者・JICA担当者・研修員の三者が参加する。

また、研修員の帰国後（原則として1カ月以内）に、各評価会での討議内容・研修員記入のJICA所定の様式による質問書（Questionnaire）・研修監理員による報告書等をもとに、JICA・委託機関他日本人関係者による反省会を行い、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、これらの結論をもって翌年度のコース改善に向けての対応方針を導き出す。

12. 平成10年度応募、選考結果

4カ国から計12名の応募があり、選考基準に基づき資格要件等を審査の結果、次の通り8名と、個別2名、計10名の受入を決定した。(来日中止1名、代替者受入1名)

	国名	氏名 (研修員番号)	生年月日 (年齢)性別	選考結果
	最終学歴 現職			
1	アゼルバイジャン AZERBAIJAN	Mr. Imanov Vilayat Ali OGLU (D-98-12334)個別一般	SEP. 20.' 62 (36) 男	○
	Enginner-economist, Economy of Chemical Industry, Oil Academy, Gaku Azerbaijan(1981 1989) Financial Marketing, G. E. Product CO. (1998-)			
2	グルジア GEORGIA	Mr. George JAPARIDZE (D-98-12335)個別一般	APR. 04.' 74 (24) 男	○
	Diploma, Biochemistry, Tbilisi State University, Tbilisi Georgia(1991 1996) International Relations Senior Manager, Georgian Airlines(1998 -)			
3	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. ASHYRBEKULY Kambarbek (D-98-02328)	FEB. 06.' 70 (28) 男	○
	Lawyer, Science of Law, The Kazak State University, Almaty Kazakstan(1990 1995) Deputy Direction on Production Manager, Irbis Co. Ltd(1998 -)			
4	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. BERGALIEV Timur (D-98-02329)	FEB. 10.' 70 (28) 男	来日 中止
	Manager, Banking, Academy of Management, Almaty Kazakstan(1995 1998) General Manager, Co, Ltd Kazshina(1998 -)			
5	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. ABDURAHMANOV Nassyghan (D-98-12203)	MAY. 22.' 61 (37) 男	○
	Engineer Automatic, Automatic System, Kazakh Chemical Technology Institute, Chymkent Kazakstan(1978 1988) Director of Procurement Department, ISC Shymkentishyna(1998-)			
6	キルギス KYRGYZ	Mr. BAIBAKPAEV Ekmekul (D-98-02324)	NOV. 03.' 59 (39) 男	○
	Economist, State University of Kyrgyz, Bishkik Kyrgyztan(1995 1997) Head of Staff, The State Committee of the Kyrgyz Republic on Foreign Inrestments and Economic Development(1998 -)			
7	キルギス KYRGYZ	Ms. KYDYRALIEVA Verera (D-98-02325)	JLY. 10.' 62 (36) 女	○
	Expert on International Relations, International Relations, Diplomatic Academy, Moscow Russia(1995 1997) Chief of the International Relations Division, Office of the Prime Ministry of Kyrgyz Republic(1998-)			
8	キルギス KYRGYZ	Mr. OMURBEKOV Torobek (D-98-12202)	MAR. 03.' 62 (36) 男	×
	Engineer Economist, Frunze Polytechnical Institute, Frunze(1978-1983) Chief of Department, The State Committee of the Kyrgyz Republic on Foreign Investments and Economic Development			
9	トルクメニスタン TURKMENISTAN	Mr. Orazmyrat ATABAEV (D-98-02326)	APR. 13.' 58 (40) 男	○
	Mining Engineer, Exploitation of Oil and Gas Deposits, Turkmen Polytechnical Institute, Ashkhabad Turkmenistan (1975-1980) Head Department of Industry Economy, Ministry of Economy and Finance(1996-)			
10	トルクメニスタン TURKMENISTAN	Mr. Batir KURBANMURADOV (D-98-02330)	MAR. 25.' 63 (36) 男	○
	Economist, Management, Institute of National Economy, Ashkhabad Turkmenistan(1984-1988) Senior Teacher Department Economic and Management, Institute of National Economy(1988-)			
11	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. MUKHITDINOV T. Zafar (D-98-02331)	JLY. 09.' 63 (33) 男	○
	General Physician, Medicine, Tashkent State Medicine Institute, Tashkent Uzbekistan(1983-1989) Deputy of General Derector, Republican Business Incubator(RBI)(1996 -)			
12	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Ms. Guzel KHAKIMOVA (D-98-02332)	FEB. 12.' 52 (46) 女	○
	Master of Business Administration, MBA Course, Taskent University of World Economy and Diplomacy, Uzbekistan(1995-1997) Training Manager, Market Skills Development Centre(1996-)			
13	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Azizov Sarvar MIRKHAKIMOVICH (D-98-12249)	AUG. 03.' 76 (22) 男	×
	Bachelor of Economy, Economy, International Institute of Management, Moscow Russia(1993-1997) Head of Department of Investitions, Tashkent City Chamber of Commodity Producers and Enverpreneurs(1998 -)			
14	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Aleksandr TOJIEV (D-98-12250)	MAR. 01.' 50 (48) 男	×
	Manager, Management, Business School, Tashkent Uzbekistan(1996) Head of Consulting department, Chamber of Commodity Producers and Entredreneurs(1997-)			

付表1. 平成10年度コース研修員リスト

LIST OF PARTICIPANTS IN "BUSINESS MANAGEMENT FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES F. Y. 1998"

(平成10年度特設中央アジア経営管理コース研修員名簿 J-98-10357)

国際協力事業団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Duration: February 3 ~ March 12, 1998

COUNTRY	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
AZERBAIDJAN (アゼルバイジャン) (個別参加)	Mr. IMANOV Vilayat Ali Oglu (イマノフ)	Sep. 20, 1968 (D-98-12334)	Financial Marketing "G. E. Product Co." G. E. プロダクト ファイナンシャル・マーケティング	Oil Academy 石油アカデミー (1981~1989, 化学・経済)	Allahverkiyeva Tamara Sergery Gizi: Azerbaijan
GEORGIA (グルジア) (個別参加)	Mr. JAPARIDZE George (ジャバリゼ)	Apr. 04, 1974 (D-98-12335)	International Relations Senior Manager, Georgian Airlines グルジア航空国際部長	Tbilisi State University トビリシ国立大学 (1991~1996, 生化学)	380058, Tamaz Zedgindze, Airport Tbilisi, Georgia
ZAKHSTAN (カザフスタン)	Mr. ASHYRBEKULY Kambarbek (アシルベクルイ)	Feb. 06, 1970 (D-98-02328)	Deputy Director on the Production-Manager, Irbis Co., LTD イルビス(株) 生産副部長	Kazakh State University カザフ国立大学 (1990~1995, 法学)	Aimanove St149, 27 Almaty, Kazakhstan
KAZAKHSTAN (カザフスタン)	Mr. ABDURAHMANOV Nassyrhan Zhakanovich (アブドラフマノフ)	May. 22, 1961 (D-98-12203)	Director of Procurement Department, ISC "Shymkentshyna" "シュムケントシナ" 社調達部長	Kazakh Chemical-technology Institute カザフ化学大学 (1978~1983, 機械技術システム)	Hamiev Nurlan, Rysculbedova St. 37, Almaty, Kazakhstan
KYRGYZ (キルギス)	Mr. BAIBAKPAEV Ekmetkul (バイバクパエフ)	Nov. 03, 1959 (D-98-02324)	Head of staff, the State Committee of the Kyrgyz Republic on Foreign Investments and Economic Development キルギス共和国外国投資経済開発委員会議長	State University キルギス国立大学 (1978~1982, 経済学)	Erkindik58a Bishkek, Kyrgyz
KYRGYZ (キルギス)	Ms. KYDYRALIEVA Venera (クドゥラリエフ)	Jul. 10, 1962 (D-98-02325)	Chief of the International Relations Division, Office of the Prime Minister of Kyrgyz Republic キルギス共和国内閣官房国際関係部長	Moscow Government University キルギス国立大学 (1979~1984, 史学)	720003, Government House Bishkek, Kyrgyz
TURKMENISTAN (トルクメニスタン)	Mr. ATABAEV Orazmyrat (アタバエフ)	Apr. 13, 1958 (D-98-02326)	Head Department of Industry Economy, Ministry of Economy and Finance 経済財務省産業局次長	Turkmen Polytechnical Institute トルクメニスタン工科大学 (1979~1984, 鉱業)	Larisa Tokareva, 9, Mechnikov St. apt 24, 744000, Ashkhabad Turkmenistan

LIST OF PARTICIPANTS IN "BUSINESS MANAGEMENT FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES F. Y. 1998"

(平成10年度特設中央アジア経営管理コース研修員名簿 J-98-10357)

国際協力事業団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Duration: February 3 ~ March 12, 1998

COUNTRY	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
TURKMENISTAN (トルクメニスタン)	Mr. KURBANMURADOV Batir (クルバンムラドフ)	Mar. 25, 1963 (D-98-02330)	Senior Teacher Department Economic and Management, Institute of National Economy トルクメニスタン国民経済大学上級専任教官	Institute of National Economy 国民経済大学 (1984~1988, 経済学)	46Hudayberdiev St, 744000, Ashkhabad, Turkmenistan
UZBEKISTANN (ウズベキスタン)	Mr. MUKHITDINOV T. Zafar (ムヒトディノフ)	Jul. 09, 1965 (D-98-02331)	Deputy of General Director, Republican Business Incubator(RBI) 共和国人工孵化ビジネス総局次長	Tashkent Medical University タシケント医科大学 (1983~1989, 医学)	Chilanzar, 5-16-14, Tashkent, 700096 Uzbekistan
UZBEKISTAN (ウズベキスタン)	Ms. KHAKIMOVA Guzel (ハキモフ)	Feb. 12, 1952 (D-98-02332)	Training Manager, Market Skills Development Centre 市場技術開発センター トレーニングマネージャー	Tashkent State Technical University タシケント工業大学 (1969~1974, 化学)	700029, 5-12 Chmkentskaja St, Tashkent, Uzbekistan

付表2. 平成10年度コース日程(案)

平成10年度 中央アジア「経営管理」研修日程表(案)

日 時	プ ロ グ ラ ム	講 師 又 は 窓 口	連 絡 先	宿 泊
2月3日(水)	研修員来日			北海道国際センター (札幌)
2月4日(木)	ブリーフィング・開講式	JICA		
2月5日(金)	ジェネラルオリエンテーション プログラムオリエンテーション	JICA HOKTAC		
2月6日(土) 2月7日(日)	自 由 自 由			
2月8日(月) 9:30-12:00 13:30-16:00	ワークスタディ: 「研修員の問題意識の整理」 講義:「産業政策」	中小企業大学校 客員教授 小林 好佐 北海道通商産業局 国際課長補佐 寒川 卓知	011-814-9232 011-709-1752	
2月9日(火) 9:30-16:00	講義:「日本の産業と経済」	北海学園大学経済学部 教 授 阿座上洋吉	(電) 011-841-1161	
2月10日(水) 9:30-16:00	講義:「経営管理」	北海道大学経済学部 助 教 授 平本 健太	(電) 011-706-2789	
2月11日(木)	祝 日			
2月12日(金) 9:30-16:00	講義:「財務管理」	北海道大学経済学部 客員教授 菊地 誠一	(電) 011-706-3631 (研究室)	
2月13日(土) 2月14日(日)	自 由 自 由			
2月15日(月) 9:30-16:00	講義:「品質管理」	藤女子大学 教 授 鹿野 昭一	(電) 011-562-5590	
2月16日(火) 13:30-15:30	講義:「北日本精機㈱」	海外係長 孟 繁巨	(電) 01242-2-1250	旭川
2月17日(水) 9:00-11:00 13:00-15:00	講義:「中小企業大学校旭川校」 講義:「㈱インテリアセンター」	総務課長代理 大森 保夫	(電) 0166-65-1200 (電) 0166-47-1188	北海道国際センター (札幌)
2月18日(木) 9:30-16:00	講義:「原価管理」	本田経営企画 代 表 本 田 康 夫	(電) 011-644-1829 (F) 011-640-7366	
2月19日(金) 13:00-15:00	訪問:「㈱光合金製作所」		(電) 0134-32-2135	
2月20日(土) 2月21日(日)	自 由 自 由			
2月22日(月) 9:30-16:00	事例研究:「日農機製工㈱」	日農機製工㈱ 代表取締役社長 安久津昌義	(電) 01562-5-2188	
2月23日(火)	(移 動)			東京
2月24日(水) 午 前	訪問:「東京証券取引所」			名古屋
2月25日(木) 9:30-16:00	訪問:「トヨタ自動車㈱」		(電) 0565-23-3922 (F) 0656-23-5712	京都
2月26日(金) 午 後	訪問:「㈱島津製作所」	企画管理部	(電) 075-823-1060 (F) 075-823-1361	京都

日 時	プ ロ グ ラ ム	講 師 又 は 窓 口	連 絡 先	宿 泊	
2月27日(土)	(移 動)			北海道国際センター (札幌)	
2月28日(日)	休 日				
3月1日(月) 9:30-16:00	講義:「販売とマーケティング」	北海道商工指導センター 北海道振興部長 中川 明	(電) 011-251-4991	北海道国際センター (札幌)	
3月2日(火) 9:30-11:30 13:30-15:30	訪問:「日糧パン(株)」 講義:「(株)ラルズ」		(電) 011-851-8111 (電) 011-813-2525		
3月3日(水) 9:30-16:00	講義:「中小企業の経営戦略」	中小企業大学校 客員教授 小林 好佐	(電) 011-814-9232		
3月4日(木) 14:00-16:00	講義:「帯広松下電工」	管理部総務課	(電) 0155-37-4111 (F) 0155-37-4567		北海道国際センター (帯広)
3月5日(金) 10:00-12:00	訪問:「日農機製工(株)」	日農機製工(株) 社 長 安久津昌義	(電) 01562-5-2188 (F) 01562-5-2107		北海道国際センター (札幌)
3月6日(土) 3月7日(日)	休 日 休 日				
3月8日(月) 9:30-16:00	講義:「現代の経済と経営」	札幌大学経営学部 教 授 小林 好宏	(電) (F)		
3月9日(火) 9:30-16:00	総合総括	中小企業大学校 客員教授 小林 好佐	(電) 011-814-9232		
3月10日(水)	評価会・閉講式				
3月11日(木)	帰国準備				
3月12日(金)	研修員帰国				

付表3. 年度別研修員受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	9年度	10年度	年度	年度	年度	年度	累計
応募数	9	14					20
受入数	8	10					18

2. 受入研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	9年度	10年度	年度	年度	年度	年度	累計
(中央アジア地域)							
カザフスタン	○●	○2					4
キルギス	○●	○●					4
タジキスタン	○●						
トルクメニスタン	○	○2					3
ウズベキスタン	○2	○●					4
グルジア		○(個)					1
アゼルバイジャン		○(個)					1
計	5カ 8名	6カ 10名	カ 国 名	カ 国 名	カ 国 名	カ 国 名	7カ 18名

平成10年度

(第3回)

中央アジア特設地域開発セミナー

実施要領

平成11年2月

国際協力事業団

北海道国際センター(札幌)

目 次

1. コース名・期間等	1
2. コースの開設背景	1
3. コースの目的	2
4. 到達目標	2
5. 研修項目, 研修方法	3
6. 研修員参加資格要件	4
7. 研修実施体制及び運営	5
8. 研修施設, 宿泊施設	5
9. 研修教材	6
10. 研修付帯プログラム	6
11. 平成10年度(第3回)応募, 選考状況	8
付表1. 研修員名簿	10
付表2. 日程(案)	12
付表3. 年度別研修員受入実績表	14

1. コース名・期間等

(1) コース名

和文：中央アジア特設地域開発セミナー

英文：COUNTRY FOCUSED GROUP TRAINING COURSE IN SEMINAR ON REGIONAL DEVELOPMENT
FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES

(2) 受入期間

平成11年2月22日（月）～平成11年3月24日（水）（31日間）

(3) 研修期間

平成11年3月1日（月）～平成11年3月23日（火）（23日間）

(4) 定員

11名

(5) 割当国

カザフスタン(2), キルギス(2), タジキスタン(2), トルクメニスタン(2), ウズベキスタン(1)
グルジア(1), アゼルバイジャン(1)

(6) 研修機関

北海道開発局

2. コースの開設背景

北海道（日本の北に位置する島：人口 569万人，面積83,452km²）は，大陸性気候特有の寒暖の差が激しい気候風土にあり，開発の歴史が130年間余りという短いものであるにもかかわらず，国際社会において一国に相当する社会・経済規模に達するに至っている。この背景には，開拓の当初から一環して寒冷地特有の技術と総合的な開発方式により，北海道の開発が進められたことがあげられる。

現在各国で取り組んでいる地域開発においては，総合的な地域開発に対する理解が乏しいこともあり，各分野で進められている個別の専門技術の移転が，全体的な地域開発に結びつかないという問題がある。このため，本コースは，北海道総合開発の成果を，気候風土等北海道と共通点を有する，中央アジア諸国の地域開発推進のため活用することを目的に，開設されたものである。

3. コースの目的

国土開発に携わる中央アジア諸国の行政官を対象に、北海道総合開発に係る計画の企画・調整、推進体制の整備のためのノウハウ等の移転を図ることを目的とする。

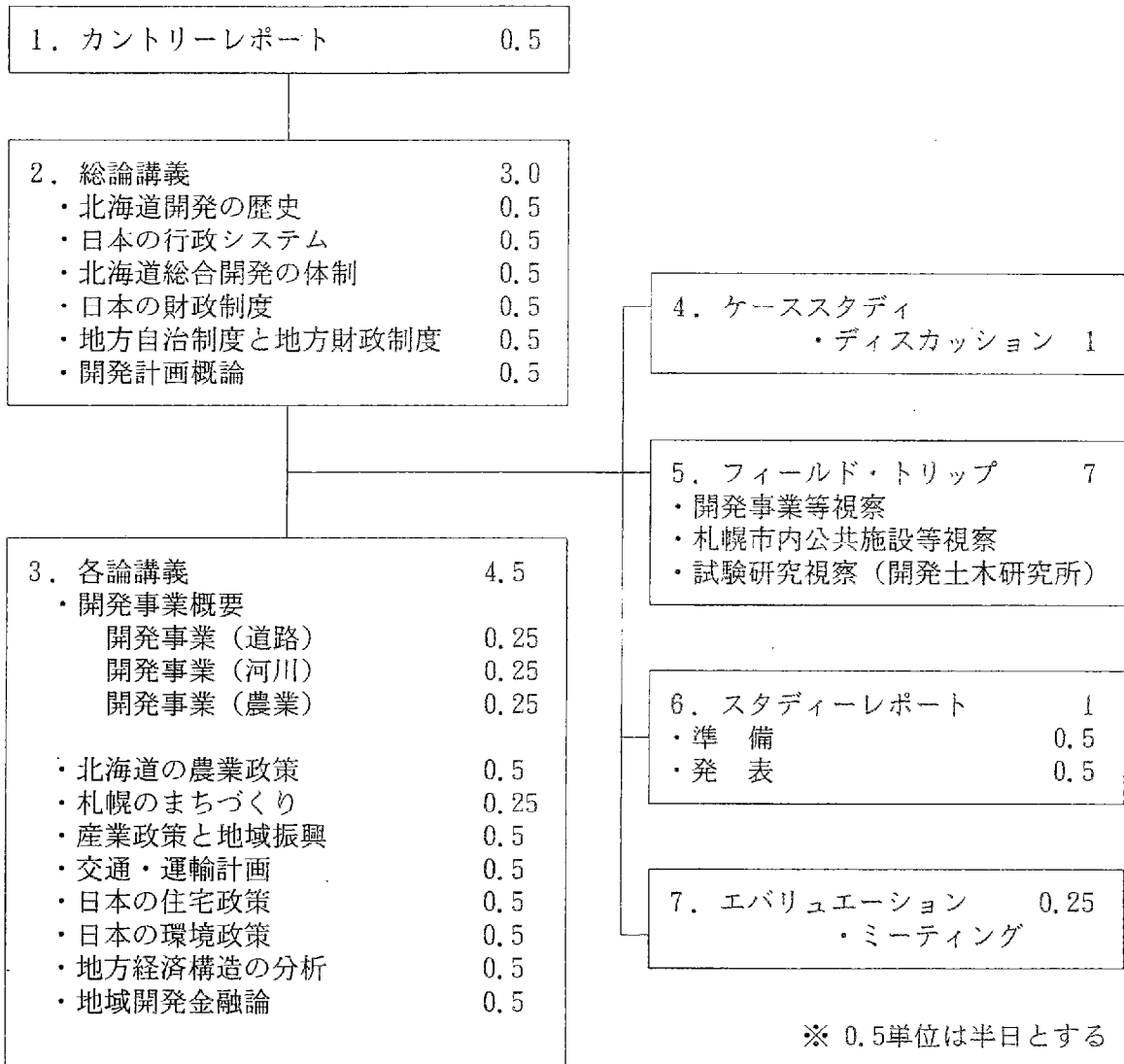
4. 到達目標

研修終了までに、以下の項目について理解を促進することを目標とする。

- 1) 北海道の開発の仕組みについての知識
- 2) 地域開発施策の計画、管理手法
- 3) 地域開発プロジェクトの策定、運営管理に関する手法
- 4) 開発と環境に関する基本的な知識と技術

5. 研修項目, 研修方法

(1) 研修項目



(2) 研修方法

本研修コースは、講義及び視察・見学（フィールドトリップ）により構成される。フィールドトリップにおいては、講義に対する理解をより深めるため、帯広市周辺など道内の中核都市を中心に開発事業を実際に見て廻る。

ア. 使用言語

主に露語を使用する。

イ. 講 義

原則として講義は午前・午後とも2時間程度（午前9：30～11：40，午後13：30～15：40）とし、北海道開発局及び北海道国際センター（札幌）を主たる実地場所として研修を行う。

ウ. フィールドトリップ

道内各地域の開発事業を通じて、その発展過程、現状等を認識させることにより、講義により取得したノウハウをさらに高める。

主な視察先：士狩大橋，農業技術センター

6. 研修員参加資格要件

(1) 選考方法

割当国政府からの要請書類に基づき、General Information(応募要領，以下G. I. と略称)に記載されている応募者の資格要件の具備程度，地域性，要請度合等を総合的に検討し，受入可否を決定する。

(2) G. I. 記載の応募資格要件

- (1) 当該政府により推薦された者
- (2) 現在，国家又は地域の開発に係る各種土木系公共事業の企画・遂行業務に従事している行政官
- (3) 大学卒業又は同等の学力を有すること。
- (4) 年齢25歳以上40歳以下の者
- (5) 十分なロシア語会話及び読解力を有する者
- (6) 身心共に健康で女性については妊娠していない者

(7) 軍役に服していない者

7. 研修実施体制及び運営

(1) コース運営のしくみ

本研修コースは、北海道開発局，財団法人北海道地域総合振興機構，国際協力事業団の協力・協議のうえ実施運営される。

(2) 研修監理員の配置

国際協力事業団は、本コースの効果的運営のために研修監理業務（通訳・進行調整等）を（財）日本国際協力センターに委託し、研修監理員の配置等を行う。

8. 研修施設，宿泊施設

(1) 研修実施機関

国際協力事業団 北海道国際センター（札幌）

所在地：〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4-25

TEL. 011-866-8393 FAX. 011-866-8382

(2) 研修受入機関

北海道開発局

所在地：〒060-8511 札幌市中央区北8条西2丁目

札幌第1合同庁舎

TEL. 011-709-2311（内線5466） FAX. 011-726-2352

(3) 宿泊施設

国際協力事業団 北海道国際センター（札幌）（省略：H I C S）

〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4-25

TEL. 011-866-8383（代） FAX. 011-866-8382

9. 研修教材

(1) 研修用のテキスト

本研修コース独自の露文によるテキストを作成し、配布する。

(2) 研修用機材

OHPを用いて図表を説明するなど各種機材を活用し、研修を行う。

10. 研修付帯プログラム

(1) 集合ブリーフィング

研修員来日直後に、国際協力事業団が北海道国際センター（札幌）にて実施するブリーフィングにおいては、国際協力事業団の業務概要等説明、研修員登録、研修員のパスポート、ビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明の他、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) 一般オリエンテーション

日本滞在中の必要知識として、我が国の現況紹介のためのオリエンテーションを次の日程にて実施する。（国際協力事業団北海道国際センター（札幌））

日	程	内 容
2 / 25 (木)	9 : 30 ~ 11 : 00	「日本語」
	11 : 10 ~ 12 : 10	「日本の伝統行事・ひなまつり」
	13 : 40 ~ 16 : 00	「日本の家と茶の湯」
2 / 26 (金)	10 : 00 ~ 12 : 00	講義「日本の社会と日本人」
	13 : 30 ~ 15 : 00	講義「日本の経済」
	15 : 15 ~ 16 : 45	講義「日本の政治・行政機構」

1. 研修の評価方法

(1) 評価目的

本コースの実施状況を明確に把握するとともに、研修成果の測定、分析を通じて当初目標の達成の成否を明らかにし、改善すべき点について今後の研修に反映させることにより、本コースにおける研修内容の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

コース終了前に、国際協力事業団所定のコース評価に関する質問表，“Questionnaire for Future Programmes”の解答を研修員に提出させ、研修員、研修受入関係者の参加による最終評価会を開催し、講義、実習、見学等の内容、成果並びに研修生活全般についての研修員の評価、要望を聴取する。

また、研修終了後、評価会での討議結果をもとに、JICA、受入機関によるコース反省会を開催し、本年度のコース内容、運営体制等についての協議を行い、次年度以後のコース改善に向けての対応方針を検討する。

11. 平成10年度（第3回）応募、選考状況

7ヶ国11名の割当に対し7ヶ国15名の応募があり、選考基準に基づき資格要件等を審査の結果、次のとおり個別研修員1名を含む14名の受入れを決定しました。

	国名	氏名 (研修員番号) 集团参加個別研修員	生年月日 (年齢) 性別	選考 結果	
最 終 学 歴 現 職					
1	アゼルバイジャン AZERBAIDJAN	Mr. MURADOV Feyzulla (D-98-02292)	FEB. 18. '51 (47) 男	○	来日中止
Economist, Economics and Economy Planning, Institute of Economy, Baku Azerbaijan (1968 1972) Department Head, Ministry of Economy of the Azerbaijan Republic (1993-)					
2	グルジア GEORGIA	Mr. Theodore ISAKADZE (D-98-02296)	JUN. 27. '65 (33) 男	○	
Philologist, Georgian Language and Literature, State University, Tbilisi (1982 1989) Governor, The Administration of Racha-Lechknmi and Kvemo Svaneti Region (1995-)					
3	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. TILGA Andrey (D-98-02290)	DEC. 31. '45 (53) 男	○	
Candidate of Science, Treatment of Ores, Institute of Mineral Resources, Moscow USSR (1984 1988) Deputy Head of Department, Committee for Economic Planning (of Ministry of Energy, Industry and Trade) (1998-)					
4	カザフスタン KAZAKHSTAN	Ms. PALTUYEVA Zaituna (D-98-02291)	NOV. 22. '70 (28) 女	○	
Engineer, Automation, Kazakh Polytechnic Institute, Almaty Kazakhstan (1998 1993) Chief Specialist Department of Economic Policy, Agency for Strategic Planning and Reform of the Republic of Kazakhstan (1997-)					
5	カザフスタン KAZAKHSTAN	Mr. BIBASSOV Mamat (D-98-11163)	JLY. 29. '70 (28) 男	○	
Bachelor, Physics, Almaty State University, Almaty Kazakhstan (1987 1992) Head Specialist, Committee for Economic Planning Ministry of Energy, Industry and Trade, The Republic of Kazakhstan (1998-)					
6	キルギス KYRGYZ	Mr. MAMATALIEV Abdyrahman (D-98-02297)	MAR. 20. '57 (41) 男	○	来日中止
Mechanic Engineer, Mechanic-Machine Construction Faculty, Politechnical Institute, Kyrgyz Republic, Bishkek (1974 1979) Chief of Department, Prime Minister of the Kyrgyz Republic (1998-)					
7	キルギス KYRGYZ	Mr. OUMETOV Manazbek (D-98-02298)	JAN. 16. '63 (36) 男	○	
Master Degree in Economics, Economics, Kyrgyz State University, Biskek Kyrgyzstan (1993-1995) Head Sectoral Loans and Grants Division, State Committee of the Kyrgyz Republic on Foreign Investment and Economic Development					
8	キルギス KYRGYZ	Mr. Satkeyev KAMIT Tolombayevich (D-98-12660)	DEC. 31. '59 (39) 男	○	
Ries Polulecknest Institute Head, Department on Free Economic Zones					

	国名	氏名 (研修員番号) 集団参加個別研修員	生年月日 (年令) 性別	選考 結果	
	最終学歴 現職				
9	タジキスタン TADZHIKISTAN	Mr. Rahmonov Abdulgafor AZIZOVICH (D-98-02299)	MAR. 29. '61 (37) 男	○	
	Economist, Economics, Tajik State Nationaly University, Dashanbel Tajikistan (1996~) Departments Head, Ministry of Economy and Foreign Economic Relations of the Republic of Tajikistan (1997~)				
10	タジキスタン TADZHIKISTAN	Mr. Turdi-Akhunov ABDUKARIM (D-98-02300)	AUG. 19. '59 (39) 男	○	
	Ingeneer for Construction, Construction, Tajik Technical University, Dushanbe Tajikistan (1982~1992) Chief of Division, Government of the Republic of Tajikistan Division of Construction (1997~)				
11	トルクメニスタン TURKMENISTAN	Mr. Begenchgeldi ALLAKULIEV (D-98-02294)	DEC. 08. '66 (32) 男	○	
	Economist, Accounting State Income, Turkmen Institute of National Economy, Ashgabat Turkmenistan (1988~1992) Chief Specialist, Ministry of Economy and Finance (1995~)				
12	トルクメニスタン TURKMENISTAN	Mr. Etrek MAMEDALIYEV (D-98-02295)	JAN. 01. '51 (48) 男	○	
	Engineer, Construction, Turkmen Polytechnical Institute, Ashkhabad Turkmenistan (1968~1973) Deputy Head of Department, Ministry of Economy and Finance (1996~)				
13	ウクライナ UKRAINE	Mr. Vasul BAKALET'S (D-98-12421) 個別一般	() 男	○	
	Permanent Representative in L'viv National Agency of Ukraine on Development and European Integration				
14	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Ravshanov SOBIR (D-98-02293)	FEB. 24. '68 (30) 男	○	
	Economist, Agriculrure, Institute of Agriculture, Uzbekistan (1993~1997) Chief Specialist, General Department on Economics and Statistics of the Samarkand Region (1997~)				
15	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Karimov Muminbek ABDHKARIMOVICH (D-98-12051)	JAN. 23. '63 (36) 男	○	
	Planning of Indmstry, Ecomist, Gorky State Hniversity, Rmssia Nizhya Noyrad City (1984~1989) Economist, Karjmov Mhminbek Sindarya. District Economic and Statistic Hand Organization (1989~)				
16	ウズベキスタン UZBEKISTAN	Mr. Kuvonov Shuhrat SUYUNOVICH (D-98-12052)	FEB. 07. '73 (25) 男	○	
	Engineer of Economy, Economy, Polytechnical Instotute, Jizzakh Uzbekistan (1990~1996) Economist, Administration of Economy and Satictics Jiaazkh Region (1996~)				

付表1. 研修員名簿

LIST OF PARTICIPANTS IN "THE STUDY COURSE IN SEMINAR ON REGIONAL DEVELOPMENT FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES FY1998"

(平成10年度中央アジア地域開発セミナーコース研修員名簿 J98-10354)

国際協力事業団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Duration: February 22~March 24

COUNTRY	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
Georgia (グルジア)	Mr. Theodore <u>ISAKADZE</u> (イサカゼ)	June 27, 1965 (D-98-02296)	Governor, The Administration of Racha-Lechkhumi and Kvemo Svaneti Region ラチャ・レフミ、クベモ・スバネチ地区長	State University (1982~1989, 邦語言語学、文学)	3 Tamar Mephe ave., Ambrolauri GEORGIA
Kazakhstan (カザフスタン)	Mr. Andrey <u>TILGA</u> (チルガ)	Dec. 31, 1945 (D-98-02290)	Deputy head of Department, Committee for economic planning, Ministry of Energy, Industry and Trade エネルギー・通商産業省経済企画委員会次長	Institute of Mineral Resources (1984~1988, 化学修士)	4 Mira Str., Astana, 473000 KAZAKHSTAN
Kazakhstan (カザフスタン)	Ms. Zaituna <u>PALTUYEVA</u> (バルトゥエフ)	Nov. 22, 1970 (D-98-02291)	Chief specialist, Department of Economic Policy and Special Programs, Agency for Strategic planning and reforms of the Republic of Kazakhstan 共和国再建・戦略計画局主任専門官	Kazakh Polytechnic Institute (1988~1993, 機械工学)	2 Mira Str., Astana, 473000 KAZAKHSTAN
Kazakhstan (カザフスタン)	Mr. Manat <u>BIBASSOV</u> (ビバソフ)	July 29, 1970 (D-98-11163)	Head specialist, Agency for economic planning, Republic of Kazakhstan エネルギー・通商産業省 経済企画委員会主任専門官	Almaty State University (1987~1992, 物理学)	2 Mira Str., Astana, 473000 KAZAKHSTAN
Kyrgyz (キルギス)	Mr. Kamit <u>SATKBEV</u> (サトケエフ)	Dec. 31, 1959 (D-98-12660)	Head, Department on Free Economic Zones, State Committee on Foreign Investments and Economic Development 外国投資委員会自由経済域課長	Kiev Polytechnical Institute (1977~1983, コンピューターシステム)	303 Erkindik Bldg. 58A, 720874 KYRGYZ
Kyrgyz (キルギス)	Mr. Manasbek <u>OUMETOV</u> (ウメトフ)	Jan. 16, 1963 (D-98-02298)	Head sectoral, Loans and Grants Division, State Committee of the Kyrgyz Republic on foreign investment and economic development 外国投資経済発展委員会借款グラント課長	Kyrgyz State University (1993~1995, 経済学修士)	303 Erkindik Bldg. 58A, Bishkek 720874 KYRGYZ
Tadzhikistan (タジキスタン)	Mr. Abdulgafor <u>RAKHMONOV</u> (ラフモノフ)	March 29, 1961 (D-98-02299)	Head, Department of Foreign Investments, Ministry of Economy and Foreign Economic Relations 経済海外関係省海外投資部長	Tajik State National University (1996~present, 経済学)	Rudaki Ave. 42, Dushanbe, TADZHIKISTAN
Tadzhikistan (タジキスタン)	Mr. Abdukarim <u>TURDI-AKHUNOV</u> (トゥルディアフノフ)	Aug. 19, 1959 (D-98-02300)	Chief, Division of Construction, Government of the Republic of Tajikistan タジキスタン政府建築部長	Tajik Technical University (1982~1992, 建築)	Rudaki st, 80, Dushanbe TADZHIKISTAN

LIST OF PARTICIPANTS IN "THE STUDY COURSE IN SEMINAR ON REGIONAL DEVELOPMENT FOR THE CENTRAL ASIAN COUNTRIES FY1998"

(平成10年度中央アジア地域開発セミナーコース研修員名簿 J98-10354)

国際協力事業団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Duration: February 22~March 24

COUNTRY	N A M E	DATE OF BIRTH	PRESENT OCCUPATION	EDUCATIONAL RECORD	ADDRESS FOR CORRESPONDENCE
Turkmenistan (トルクメニスタン)	Mr. Begenchgeldi <u>ALLAKULIEV</u> (アラクリエフ)	Dec. 8, 1966 (D-98-02294)	Chief Specialist, Ministry of Economy and Finance 経済財務省主任専門官	Turkmen Institute of National Economy (1938~1992, 経済)	4N Pomma Str., 744000, Ashgabat TURKMENISTAN
Turkmenistan (トルクメニスタン)	Mr. Etrek <u>MAMEDALIYEV</u> (マメダリエフ)	Jan. 1, 1951 (D-98-02295)	Deputy Head of Department, Ministry of Economy and Finance 経済財務省価格管理部次長	Turkmen Polytechnical Institute (1968~1973, 建築)	4N Pomma Str., 744000, Ashgabat TURKMENISTAN
Ukraine (ウクライナ) (個別参加)	Mr. Vasyi <u>BAKALETS</u> (バカレツ) J98-12303	Nov. 4, 1956 (D-98-12421)	Head West Ukrainian NAUDEI Representation ウクライナ開発・ヨーロッパ統合局 西部事務所長	State University (1973~1978, 数学)	290008, Lviv 8, Box 1333, Vynnychenka, 6 UKRAINE
Uzbekistan (ウズベキスタン)	Mr. Sobir <u>RAVSHANOV</u> (ラフシャノフ)	Feb. 24, 1968 (D-98-02293)	Chief Specialist, General Department on Economics and Statistics of the Samarkand Region サマルカンド州 政府経済・統計総局主任専門官	Institute of Agriculture (1993~1997, 経済)	Kuk-Saray, 1 Samarkand UZBEKISTAN
Uzbekistan (ウズベキスタン)	Mr. Muminbek <u>KARIMOV</u> (カリモフ)	Jan. 23, 1963 (D-98-12051)	Head, Economic and Statistic Organisation, Sirdarya Region シルダリア州計算センター所長	Gorky State University of Russian Federation Nizhny-Novgorod (1984~1989, 工業計画)	Mustakillik str. 63, Culistan city, Sirdarya Region UZBEKISTAN
Uzbekistan (ウズベキスタン)	Mr. Shuhrat <u>KUVONOV</u> (クヴァノフ)	Feb. 7, 1973 (D-98-12052)	Deputy Head, Administration of Economy and Statistics, Jizzakh Region ジザク州政府経済・統計総局次長	Politechnical Institute (1990~1996, 経済学)	63 Sh. Rashidov st., Jizzakh Region UZBEKISTAN

付表2. 日程(案)

平成10年度中央アジア国別特設「地域開発セミナー」コース日程(案)

日程	時間	講義及び講師	講師等連絡先	研修実施場所
2/22 (月)		来日移動(東京→札幌)		
2/23 (火)		JICAにてブリーフィング及び オリエンテーション		北海道 国際センター (HICS)
2/24 (水)		"		
2/25 (木)		"		
2/26 (金)		"		
2/27 (土)		休日		
2/28 (日)		休日		
3/1 (月)	9:30~9:50	ガイダンス		第一合同庁舎 10F2号
	10:00~15:50	カントリーレポート発表会 (北海道地域総合研究所理事長 荒井 信雄)	札幌市北区北6条7丁目 (011)717-2211 (011)717-2212(FAX)	
	16:00~16:20	局長表敬	札幌市北区北8条西2丁目 (011)709-2311(内線5466)	局長応接室
3/2 (火)	9:30~11:40	北海道開発の歴史 札幌大学経営学部教授 小林 好宏	札幌市豊平区西岡3条7丁目 3-1 (011)852-1181	北海道 国際センター (HICS)
	13:30~15:40	日本の行政システム 北海道開発庁企画室 三上 誠順	(03)3581-0608	
3/3 (水)	9:30~11:40	北海道総合開発の体制 開発計画課国際室長 池田 憲二	(内線5458)	
	13:30~15:40	開発計画概論 開発計画課長補佐 藤田 洋	(内線5464)	
3/4 (木)	9:30~11:40	日本の財政制度 開発計画課計画総括係長 井上 健二	(内線5468)	
	13:30~15:40	地方自治制度と地方財政制度 北海道地域振興室市町村課公務員係長 松岡 一三	札幌市中央区北3条西6丁目 (011)231-4111(内線23-515)	
3/5 (金)	9:30~11:40	北海道の農業政策 北海道大学農学部教授 長南 史男	札幌市北区北9条西9丁目 (011)716-2111	
	13:20~14:50	開発事業(農業) 農業計画課開発専門官 福島 健司	(内線5513)	
	15:00~16:30	開発事業(河川) 河川計画課課長補佐 柳屋 圭吾	(内線5294)	
3/8 (月)	9:00~10:30	開発事業(道路) 道路計画課開発専門官 和泉 晶裕	(内線5357)	
	10:40~12:10	札幌のまちづくり 札幌市企画調整局企画部企画課企画主査 星 卓志	札幌市中央区北1条西2丁目 (011)211-2192	
	13:30~17:00	フィールドトリップ(札幌市内)		
3/9 (火)	9:30~11:40	産業政策と地域振興 札幌大学経済学部教授 松本 源太郎	札幌市豊平区西岡3条7丁目 3-1 (011)852-1181	
	13:30~15:40	スタディレポート準備 (北海道議地域総合研究所理事長 荒井 信雄)		
3/10 (水)		フィールドトリップ(帯広)		
3/12 (金)				
3/15 (月)	9:30~11:40	交通・運輸計画 北海学園大学工学部教授 五十嵐 日出夫	札幌市中央区南26条西11丁目 (011)841-1161	HICS
	13:30~16:30	試験研究視察(開発土木研究所)	札幌市豊平区平岸1条3丁目 (011)841-1111	
3/16 (火)	9:30~11:40	日本の環境政策 北海道大学経済学部教授 吉田 文和	札幌市北区北9条西9丁目 (011)716-2111	
	13:30~15:40	日本の住宅政策 北海道大学大学院工学研究科助教授 瀬戸口 剛	札幌市北区北13条西8丁目 (011)706-6242	

日 程	時 間	講 義 及 び 講 師	講 師 等 連 絡 先	研修実施場所
3/17 (水)	9:30~11:40	地方経済構造の分析 北海道大学経済学部教授 井上 久志	札幌市北区北9条西9丁目 (011)716-2111	HICS
	13:30~15:40	ディスカッション(地域開発の実際) 早稲田大学政治経済学部教授 坪井 善明	東京都新宿区西早稲田1-6-1 (03)5286-1289	
3/18 (木)	9:00~11:00	地域開発金融制度 日本開発銀行札幌支店次長 田上 伸博	札幌市北区北9条西9丁目 (011)716-2111	HICS
	13:30~15:40	ケーススタディ (北海道地域総合研究所理事長 荒井 信雄)	札幌市北区北13条西8丁目 (011)706-6242	
3/19 (金)	9:00~9:20	局長表敬		局長応接室
	9:30~14:40	スタディレポート発表会 (北海道地域総合研究所理事長 荒井 信雄)		第一合同庁舎 10F2号
	15:00~16:20	最終評価会		HICS
	16:30~17:00	閉講式		
17:30~	フェアウェルパーティ			
3/20 (土)		休 日		
3/21 (日)		休 日(春分の日)		
3/22 (月)		振替え休日 移 動 <札幌→東京>		
3/23 (火)		開発庁表敬		
3/24 (水)		離 日		

平成10年度

(第18回)

中央アジア・コーカサス特設財政金融コース
実 施 要 領

平成10年11月

国際協力事業団
東京国際研修センター

目 次

1. コース名等	1
2. コースの背景・目的	1
3. 主な研修項目・内容・到達目標	3
4. 研修方法・使用言語	4
5. 研修員参加資格要件	4
別添1. カリキュラム構成図	6

1. コース名等

(1) コース名

○和文：中央アジア・コーカサス特設財政金融コース

○英文：THE STUDY COURSE IN DEVELOPMENT FINANCE

FOR THE CENTRAL ASIAN AND CAUCASIAN COUNTRIES

(2) 研修期間

平成10年11月28日（日）～平成10年12月23日（水）まで（26日間）

(3) 定 員

13名（個別研修員 1名含）

2. コースの背景・目的

(1) 背 景

旧ソ連独立国家共同体のうち、中央アジア5か国が93年1月1日にOECD開発援助委員会（DAC）のリストに掲載されたことをうけて、我が国はODAによる当該諸国に対する経済協力を実施することを決定した。このため新国家建設のための人造りの一環として、平成5年度から3年間にわたり当該5か国から合計300名の技術研修員をJICAベースで受け入れる事としている。また、平成6年度よりグルジア、アゼルバイジャン、アルメニアのコーカサス地方、3か国が含まれることとなった。

本コースは日本の金融・財政システム、産業振興のための財政・金融政策など及び、市場経済移行における財政・金融制度と政策、東アジア通貨・金融危機の教訓などを学ぶことにより、中央アジア・コーカサス諸国の経済発展に協力するものである。

(2) 目 的

以下の4つを学ぶことを通じて、本コースが中央アジア・コーカサス諸国にとって今後の経済改革と産業発展の政策立案及び実施に資することを目的とする。

- ① 日本における財政金融システムとマクロ経済運営
- ② 市場経済への移行と産業発展のための財政金融制度及び政策
- ③ 東アジアの通貨・金融危機とその教訓
- ④ グローバリゼーションと地域統合

3. 主な研修項目・内容・到達目標

(1) 講義

半日を1コマとする

項 目	講 義 内 容	到 達 目 標	時間数
日本経済の発展と現状・ 財政金融政策の役割	1. 日本経済の発展についての 理論と政策 2. 日本経済の現状と問題点 3. 財政金融政策の役割	・ 発展理論と政治の役割を学ぶ ・ 今日の日本の経済の課題、 とくに金融制度と財政改革	3 コマ
市場経済移行と財政、 金融改革	1. 中央アジアにおける移行と 財政金融改革の問題点 2. 世銀・IMFのアプローチ の評価 3. 改革とグッド・ガバナンス	・ 世銀・IMFのアプローチの 是非を学ぶ ・ 各国の初期条件や発展段階に 応じた戦略の必要性を知る ・ 金融制度改革、国営企業改革 のあり方	4 コマ
日本の財政制度と 税務行政	1. 財政制度と改革 2. 税務行政	・ 政府の支出の役割を学ぶ ・ 税制の持つ経済効果を学ぶ ・ 税務制度の確立を学ぶ	2 コマ
グローバル化と地域協力	1. グローバル化の意味 2. 中央アジアにおける地域協 力のあり方	・ WTO、EU、APECなど の概念と整合性を検討	1 コマ
産業振興と金融政策の 役割	1. 中小企業育成と金融支援 2. 民営化と資金調達	・ 産業振興や中小企業育成のた めの金融制度と政策	4 コマ
日本の中央アジア支援	1. 日本の円借について 2. 日本のユーラシア外交	・ 円借款の仕組みを学ぶ ・ 日本の外交戦略、援助戦略を 学ぶ	4 コマ
東アジアの通貨・ 金融危機	1. 危機の要因 2. その影響 3. 中央アジア・コーカサスへ の教訓	・ 外資の活用と国内金融制度の 確立を学ぶ ・ 為替レートのあり方を学ぶ	3 コマ

(2) リポート作成の発表と議論

- ・ G Iにおいて示された課題に関するポジションペーパーの作成と発表・議論 1回
- ・研修の最後にワークショップを開催し、研修生の報告と討議 1回

これら2つのリポートを通じて研修員が自国の問題点の指摘と、それに対する処方箋を描くことを目的とする。

研修が一方通行にならないためにもこうしたリポート作成と討論は重要と考える。

(3) 見学及び訪問

機 関 名	目 的
外務省 N I S 室 産 業 技 術 記 念 館	日本の対ユーラシア外交についての意見交換をおこなう トヨタの生い立ちと今日までの技術革新の歴史を学ぶ

4. 研修方法・使用言語

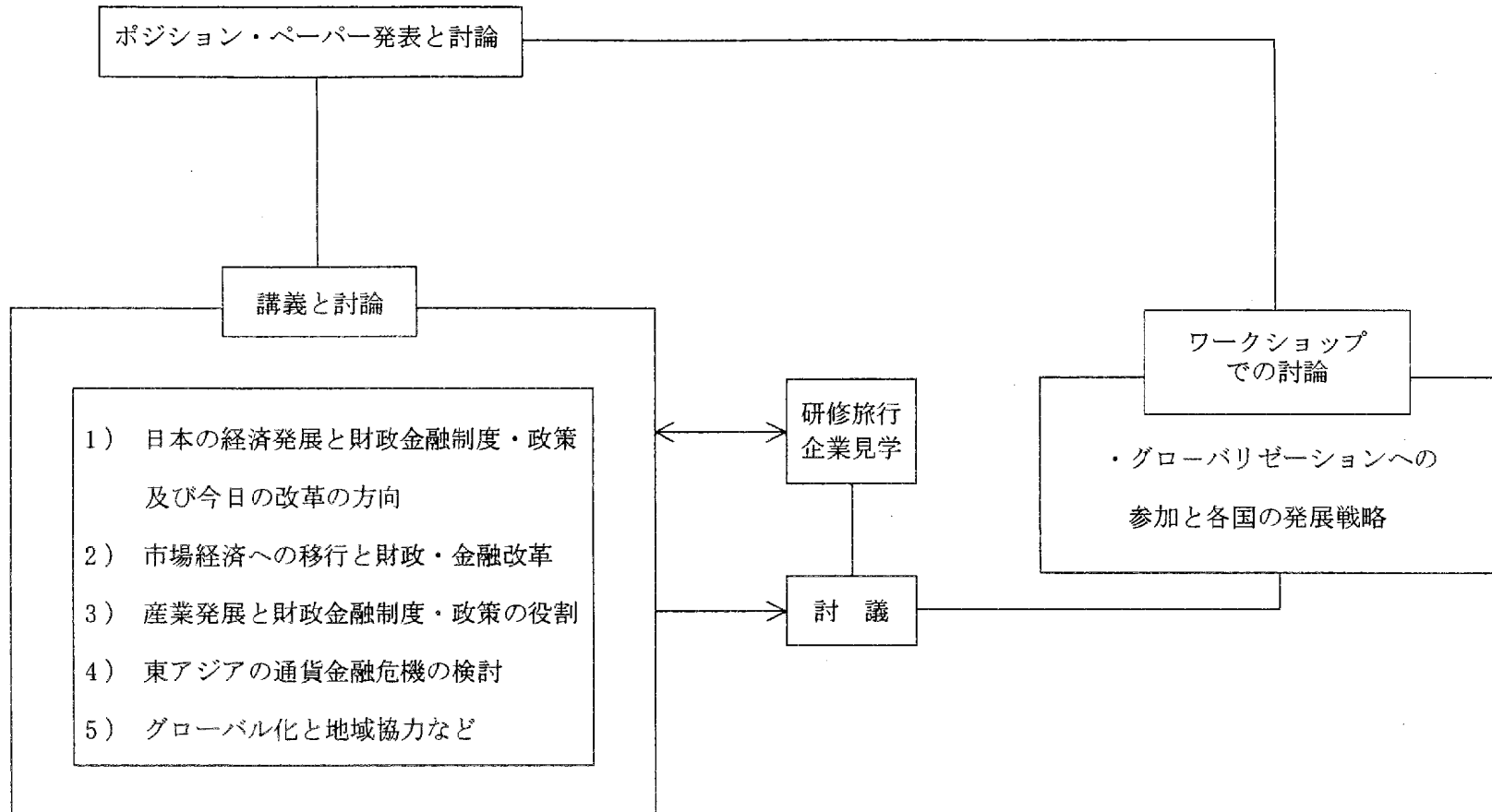
研修日程記載の研修項目に従い、講義・討論・訪問・見学等により研修を実施する。
使用言語は原則としてロシア語とし、必要に応じて日本語からロシア語に通訳することとする。なお、配付資料はG Iに明記してあるように英文とする。

5. 研修員参加資格要件

- (1) 所定の手続きに基づく相手国政府推薦者であること。
- (2) 大蔵省、中央銀行、政府金融機関等の財政・金融及び経済関連の政府機関で働く者。
- (3) 大学卒業もしくは同程度の学歴を有するもの。
- (4) 年齢、30歳以上40歳以下の者。

- (5) 心身ともに健康で、コースを受講するに耐え得る者。妊婦は無資格。
- (6) 配布資料は英文のみであるので英文資料の読解力を持つ者。

別添1. カリキュラム構成図



(9)

關 連 記 事

カザフスタン トカエフ副首相に聞く

セミパラチンスク支援国際会議に期待

カザフスタン共和国のK・トカエフ副首相兼外相のインタビュー写真は、このほど首都アスタナで産経新聞と会見し、旧ソ連時代の核実験場セミパラチンスクへの初の支援国際会議が、九月に東京で開か



れることに期行を表明。また、ナザルバエフ大統領が十一月に訪日の予定であることを明らかにした。

セミパラチンスク支援国際会議は、昨年の国連総会決議を受けて、被爆国としての経緯と被爆医

療支援の実績を生かし日本が主催する。一九四九年八月から約四十年間、五百回近い核爆発の実験場となった同国北東部セミパラチンスクは、被害や汚染の実態などいまだ不明の部分も少なくなく、後遺症に苦しむ住民は三十万人とも言われる。救援の手が国際的広がりを見せたチェルノブイリ(原発事故)とは対照的だ。

会議は国連開発計画(UNDP)が共催し、被爆者支援に関心ある国々、国際機関、NGO(非政府機関)に参加を呼びかける。

トカエフ外相は会見で「現地の環境は悪化、住民の苦しみは続いている。女性はいまだに出産をためらっている。ソ連時代は一切が秘密に包まれていたが、今も情報

の幾つかはモスクワが握り、カザフ側には知らされていない」と、被爆問題の深刻さを強調した。

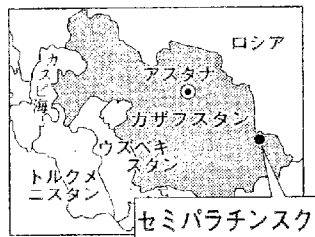
会議のカザフ代表団長でもある同外相は「世界的に支援国がドナー(寄付)疲れであることは承知している。その中で日本が支援に大きなイニシアチブを取ってくれたことに感謝したい。住民の

財政面への期待も大きい」と述べた。

その上で同外相は、同国がソ連時代の核実験場を閉鎖し、核拡散防止条約(NPT)に加盟するなど核不拡散体制に貢献している点を指摘した。

また、中央アジア地域に重点を置く日本のシルクロード外交を評価するとともに、カザフ自身も経済的、政治的両面からシルクロード戦略を進め、中央アジアの地政学的重要性をアピールしていく姿勢を明らかにした。同地域では隣接のウズベキスタン共和国がしばしば並び称される。

トカエフ外相は「たしかに両国はライバルの要素はある。けれど古代シルクロードの時代には両国



核爆発の場 後遺症に苦しむ住民

はなく、道だけがあった。いまわれわれには共通の利害があり、シルクロード戦略は共通の事業」と述べた。

さらに、今年一月の選挙で任期を二〇〇六年までとしたナザルバエフ大統領が、「両国の協力の原則を確認するため」九四年に続き、十一月に訪日を準備中であることを明らかにした。

一方、同国の市場経済化の現状と問題点について「国際通貨基金(IMF)からは、マクロ経済の安定について高い評価を得た。だが移行経済の国々は、IMFの勧告をすべて実施するのは無理がある。カザフスタンの場合も財政赤字の削減は難しい。またラジカルな改革を行う国はほとんどがそらだと思いが、改革の過程で貧富の差が拡大していく。犠牲の軽減を努力している」と語った。(千野 暲子)

カザフスタン国営テレビ「ハバル」
ダリガ・ナザルバエバ社長

カザフスタンの国営テレビ「ハバル」のダリガ・ナザルバエバ社長。
ナザルバエバ大統領の長女でもある
(千野瑛子撮影)



競争が発展につながる

旧ソ連の崩壊により次々と独立した中央アジア各国では、市場経済化の浸透に向けて、メディアへの期待は小さくない。だがメディアもまた旧ソ連時代の共産黨的体制を引きずって停滞、社会と国民の改革という二重の役割を

果たしている。カザフスタンの国営テレビ「ハバル」のダリガ・ナザルバエバ社長(左)は同国テレビの最新事情を聞いた。

(アルマトイで、千野瑛子)

名前から分かるように、同社長はナザルバエバ大統領の長女。今年一月の選挙で、〇六年まで任期を確保にし、欧米では開発独裁型大統領の批判もある同大統領に「ただ一人、直言できる人」との評判だ。ただし本人いわく、「そのうわさはウソです。でも父とは政治から経済、家族のことなど議論をよくします」。

ハバルの創設は十五年。一日約十五時間のテレビ放映のほか、九七年からは、ラジオ

放送も一日十八時間行っている。同社長は創設から参加した。スタッフは約四百人いる。テレビ界は旧ソ連時代と様変わりし、民間も七、八局、地方局に至っては四十六局。将来的には中央アジア全域、ロシア、中国も放送網に入れるが、現在は人口一千五百五十万の同国にしては乱立気味だ。

ソ連時代と一変 民間・地方局乱立

同社長も「カザフスタンは市場が小さい。広告の分配も当然小さくなる。保守的な考えかもしれないが、どこかで(局の)整理があると思う。民間が国営と競争していくのは経済的には難しいだろう。でも競争は結構、ソ連時代は競争は良くないとされたが、いまでは競争があった方がよいと分かった。競争があり発展もある」と歯切れが良い。

ハバルは国営だけに放映の重点は①ニュース情報の教育③娯楽に置く。なかでも大

統領や政府、議会などの公的情報に力を入れている。同業他社から「大統領の娘だからニュースの入手に有利」との声もあるが、「それは政治的皮肉と無視するだけ。自分には、チャソネルをゼロから始めた自負がある。品質の良い面白い番組を心掛けていく。面白くなければ収入も入りません」と、批判をかわす。

国営だが経費の三五％は宣伝・広告に使う。日本の公共放送が視聴料に依っていることを説明すると「私たちに夢みたくない話。五、十年後に可能になるかどうか」と答え

番組の六五％は自社制作し、残りはロシアや米国などから購入している。アジア諸国との交流にも関心を向け、昨年、アジア太平洋放送連合(ABU)に加盟した。

現在の問題は、新憲法で国

家語となったカザフ語の番組が少ないこと。法律では公用語のロシア語と五〇％を占めたが、この枠の維持が難しい。独立後、技術のあるロシア人の流出が続いたことも影響している。

それだけに課題は、カザフ語番組を作るシャリナリストや専門家養成と云う。旧ソ連時代はモスクワやレニングレード(現サンクトペテルブルク)に頼っていたが、「ハバルを養成のベースにしたい。需要は多く、育てると他局に引き抜かれるだろうが、それでも良い」。〇〇一年には稼働させるべく準備中」と語る。このほか同国の児童などを題材とした良質な子供番組の制作、映画、ドキュメンタリーなど抱負は多い。「お金の問題がなければ、もっと速いペースでやりたいことがたくさんある。テレビの仕事は面白い。ほとんど病気で」と笑った。

論 多 筆 一

論説委員 千野境子

再考 シルクロード外交

わらず人々の日本への熱意思
い一端を記してみたい。
そもそも日本との時差は二
十四時間だが、例えばウズベ
キスタン共和国の首都タシケ
ントまで、日本からは二日が
かりだ。成田からフランクフ
ルトへ飛び、再びアジアへ戻
る。かつてのモスクワ経由は
フライトの不確実性などから
すっかり敬遠され、ソ連離れ
はここでも明かだ。

いま一番の近道はソウル経
由で、アジア航空の直行便
がタシケントまで飛ぶ。同市
内には、三星などの看板が日

立つ。韓国ビジネスの積極果
敢さの現れであると同時に、
スターリン時代に極東から強
制移住させられた朝鮮族の存
在が大変だ。だが週に一便程
度、いきおい日本人は、遠くへ
も毎日飛来フランクフルト経
由に頼らざるをえない。

このような時間的空間的隔
ちからかわらず、否、だ
からこそであろう、現地では
いま政府から民間人に至るま
で、静かな日本熱が起きてい
る。ウズベキスタンのガニエ
フ対外経済関係相は会見でも
演説してしまう、あの社会主

義的スタイルが抜けないが、
自身の大半は日本への期待と
感謝に費やされた。三年でエ
ネルギーの輸入国から自立国
へ転換出来たのは、輸銀の融
資のおかげと強調した。

また女性のサイドバ大臣会
議情報分析局長は「この二年
間に私の局から四人が訪日
し、多くの知識と経験を得て
帰国しました。自分の目で日
本を見て来ること、それは私
たちにとっておとぎ漸の世界
なのです」と言ったものだ。
カザフスタン共和国のトカ
エフ副首相兼外相は「日本語

を勉強したい人のための日本
センターの開設を期待してい
ます。実は私も勉強している
んです」と打ち明けた。
もちろんこれらは、日本の
支援に対するリップサービス
と割り引く必要はある。ソ連
のくびきから逃れ、自立を目
指す中央アジアにとって、日
本や欧米のODA(政府開発
援助)や投資こそ、もっとも
切望するものでもあるから
だ。けれど彼らと日本側の関
心の落差の大きさを考える
時、この日本熱の行方を案じ
る気持ちにも襲われる。

その上で橋本氏はシルクロ
ード外交を①政治対話②経済
・資源開発協力③核不拡散・
民主化、安定化による平和協
力の三分野に整理し、「私も熱
いままざしを持って見つけて
おきます」と述べている。
石油、天然ガスなどの資源
を有し、ロシア、中国と国境
を接する地政学的にも重要な
これら地域への、なかなか戦

フロンティア精神の刺激を

二年前、これら地域の重要
性に言及したのは橋本龍太郎
首相(当時)だった。九七年
七月、橋本氏は経済同友会の
席上、「二十一世紀に向けて
の日本外交のフロンティアを
ユーラシア地域に拡大する」
として、対露関係が中心では
あるが、シルクロード地域に
ついては触れている。

△なおお文明の流れに目を
転じれば、正倉院に残る宝物
はシルクロードという一つの
道を経て日本に伝えられたも
のであります。これらの日本
に伝えられた文明がその当時

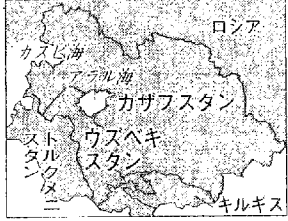
の人々に、そして現代を生き
る我々などのような影響を与
えたかについて思いを馳せる
のは私だけではないと思いま
す。(演説から)

シルクロードや資源だけでな
いことも、訪れて実感した。
タシケントにもカザフスタン
第一の都市アルマトイにも、
日本人抑留死に者の葬地がひ
っそりと、地五墳地に寄り添
うようにしてあった。

産 経 経 聞



国際協力事業団(JICA)が中央アジア五カ国への市場経済化支援を、本格的に行い始めてから五年になる。このほどウズベキスタンとカザフスタン両共和国を訪れ、その成果を政府当局者やJICA研修生、日本から派遣の専門家などに聞いた。日本外交としてまだまだ未知の部分が多いこの地域におけるODA(政府開発援助)の現状と課題を考える。(千野優子、写真も)



ゆっくり、ゆっくり。ウズベキスタンの市場経済は、二百八十七万を擁する。棉花生産では世界第四位、金など鉱石も産出する余裕と同時に、それはカリモフ大統領の改革五原則の方針でもある。閣僚会議のサイドパ情報分析局長(副首相)は「私たちがソ連時代の計画経済のそれと同じ市場経済という言葉を使っている、私と彼(同国経済顧問の渡辺顕一氏)では違うと思う」と率直だった。

▶▶上

ウズベキスタン

元銀行マンの渡辺氏は、同定期に集まること自体が課題局が迎え入れた唯一の外国人。金融やクレジットなどの専門にとまらず、農業など幅広い分野で市場経済化の指南役を務める。同局長は「渡辺さんは辛抱強い。たくさんを経験を持つ彼の言うようにはできないが、敬意を持って聞いてい」と述べるなど、むしろ渡辺氏の現場での苦労のほども伝わってきた。

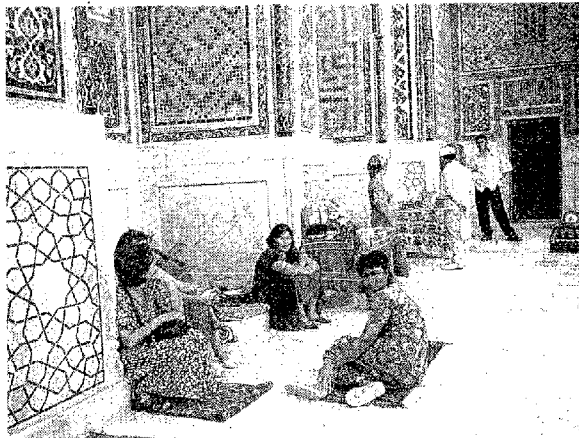
首都タシケントの国家社会建設アカデミーで、アドバイザーを務めるのはJICAの長期専門家、田宮友恵氏だ。JICAは「重要政策中枢支援協力」としてアカデミーに「日本コース」を設け、日ノミスト、会社社長、判事などの戦後復興、産業政策、行

政・公務員制度、企業・経営管理など計画経済とは異なるさまざまな分野の講義を行っている。田宮氏は「最初は受講生が

市場経済 ゆっくり指南

「研修期間をもう少し長果、日本に関心を持つ者が増える。背景にはウズベキスタンの子供が日本語学校へ通っている」など訪日後、日本がシルクロードのいわば本への関心が倍加したことが

単なる観目やあこがれとちがう。背景にはウズベキスタンの子供が日本語学校へ通っている。日本がシルクロードのいわば本への関心が倍加したことが、歴史や伝統、文化を持つこ



屋下がり、サマルカンドの寺院でシルクロードの土産品を売る人々。とへの自負があり、そうした類似性からも日本の成功を手本にしたいとの願望が感じられる。

同国が市場経済化に漸進主義を採用するのも、こうした自国へのこだわりと重なる。国際通貨基金(IMF)主導で市場経済化を進め、経済が混乱しては困る。市場経済化に伴う格差の拡大が、社会不安を招いてはその警戒心もある。ガニエフ対外経済関係相は「ロシアを見てくたさい。国内は危機、混濁です」と言、たのめだ。

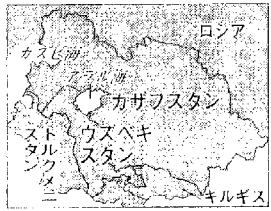
日本の支援を頼もしく受け止めるのも、欧米型のIMF一辺倒とは一味違うからだろう。ただ支援にあたっては、ウズベキスタン方式には「改革を拒む言い訳にならないか」「結果として他国との競争に遅れないか」などの批判や疑問もある。正を、絶えず念頭に置く必要がある。

出陣のDOA

▶▶ 中

ウズベキスタンの首都タシケントから空路、カザフスタン第一の都アルマトイに着いて目を見張った。

市場経済化の進展の違いが、一目瞭然(りようぜん)となつた。例えば町の中心部へ至る道路沿いには、ビッグ3(三菱、日産、トヨタ)はじめ外車の看板やショッピングセンターが並ぶ。日抜き通りに、欧米の高級ブランドが店舗を運



「彼らの達成したものは素晴らしい。ただ私の懸念は、優秀ゆえに民間に引き抜かれることだ。目が離せない。需要があるのは良いことだが、国家の改革も始まったばかりだ。」

カザフスタン

ないが、カザフでは市場原理一千万の差をつけて一位とがそこまで及んでいるとも言える。

こうして「ビッグバン型改革路線」(JICAの表現)は、ナザルバエフ大統領の、国際金融界との積極的な提携路線に基づいている。

人口は二百八十万と最も多のウズベキスタンより八割方少ないが、国土は日本の七倍と五カ国で最大。石油や天然ガス、石炭、鉄鉱石など資源にも富む。とくにカスピ海

のエネルギー資源争奪は、米、日、欧米の争奪戦を巻き付けている。二国間、多国間の援助総額も約五億六千万(一九九八

ビッグバンはひびきも

作)とウズベキスタンとは一ケタ違う。日本はウズベキスタンでは二番目に最大のドナー国だが、カザフスタンでは累計(九六―九八年)はトヨタながら、九八年は米国の約

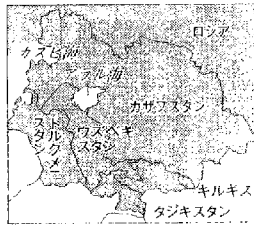
「ある人は多い」と語る。また、同氏は「私たちの祖先は遊牧民だし、遊牧は気候に左右され、政府機関の存在が、計画は中休み状態だ。同窓会のアイディアを聞きな



アルマトイではいま、ディズニールランドを思わせるこんな遊園地へ行くことが、市民には人気の的だ

出たぞ！ ADO

▶▶ 下



今回訪れたウズベキスタンとカザフスタンにタジキスタン、トルクメニスタン、そしてキルギスが中央アジア五カ国を形成する。

市場経済化を支援する国際協力事業団(ICA)は、日本での研修に際しては、五カ国という単位で実施しているが、その是非がアルマトイ(カザフスタン)の元研修生たちの座談会を議論と

なりました。「市場経済化も各国の差が出てきた。方法も逆えば結果のレベルも違う。もう各国別に行った方がよいのでは」と統計局でマクロ経済を専門とする女性が口火を切った。

「改革の進展、方法が違っているが、その是非がアルマトイ(カザフスタン)の元研修生たちの座談会を議論と

シルクロード共同体

かび上がった。そもそも中央アジアとしての共同体意識はあるのだろうか。

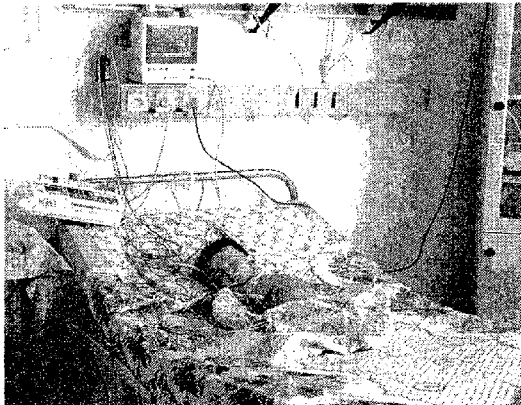
「哲学的な難しい問題だ。ソ連の下で統治されてきた長い遺産がある。一体性は感じている。ロシア語という共通の言葉もある。にもかかわらずマクロ経済ではやり方も異なり、国同士の対立も出てきている。しかし世界的視野で見れば一体だろう。今後、東南アジア諸国連合(ASEAN)のような可能性もないわけではないと思う」

一九九七年七月、橋本龍太郎首相(当時)はこの地域に對して、シルクロード外交を提唱した。基本には①地政学的重要性②経済的重要性(特にエネルギー資源)③歴史、文化的背景の重要性の

三本柱があった。だが元研修生たちも意見が分かれたように、五カ国には事務所を開いた。世界で七十一カ国目、中央アジアでは初「他からうやましがられてきた。現地職員を公募するや、応募が殺到するなど日本

ベキスタンのタシケントに、母子病院も訪れる機会があった。最先端医療機材のほとんどが、日本からの援助だ。そのものが、いよいよ生活の中に入ってくるのだから、そこには期待とともに、お手並み拝見といった表情も感

計画経済から市場経済へ移行中の国々では、医療サービスの下も顕著だ。民間化で生まれる良質な病院は診察料も高い。社会主義時代からの公立病院は安い無料だが、老朽化の一途。貧困軽減のためのソーシャル・セーフティネットとして、無償資金協力の必要性も依然、減っては



医療機材の整備など、無償資金協力への期待も高い。サマルカンドの母子病院

顔の見える協力に期待感

一九九七年七月、橋本龍太郎首相(当時)はこの地域に對して、シルクロード外交を提唱した。基本には①地政学的重要性②経済的重要性(特にエネルギー資源)③歴史、文化的背景の重要性の

三本柱があった。だが元研修生たちも意見が分かれたように、五カ国には事務所を開いた。世界で七十一カ国目、中央アジアでは初「他からうやましがられてきた。現地職員を公募するや、応募が殺到するなど日本

ベキスタンのタシケントに、母子病院も訪れる機会があった。最先端医療機材のほとんどが、日本からの援助だ。そのものが、いよいよ生活の中に入ってくるのだから、そこには期待ととともに、お手並み拝見といった表情も感

計画経済から市場経済へ移行中の国々では、医療サービスの下も顕著だ。民間化で生まれる良質な病院は診察料も高い。社会主義時代からの公立病院は安い無料だが、老朽化の一途。貧困軽減のためのソーシャル・セーフティネットとして、無償資金協力の必要性も依然、減っては

「これまでICAの協力は政府レベルだったが、青年海外協力隊がやって来る。これは、本当の、顔の見える協力が始まると思う。日本から入ってくるのだから、そこには期待ととともに、お手並み拝見といった表情も感

(千野境子、写真も)



産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ① 産業経済新聞東京本社1999
〒100-6077東京都千代田区大手町1-7-2
② 東京(03)3231-7111(大代表)

主な記事

渋滞解消で経済活性化(11面)
大卒の就職率戦後最低(22面)
日債銀粉飾1千億超す(23面)
産経Web http://www.sankei.co.jp/

購読お申し込み ☎0120-34-4646

平成十二年 夏

中央アジアに眠る日本人

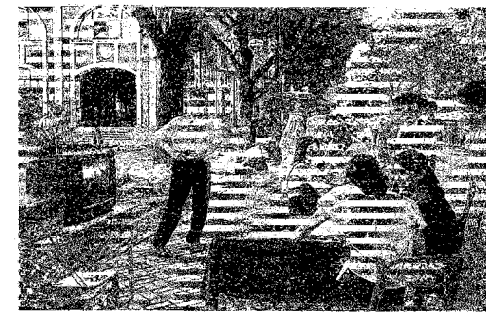
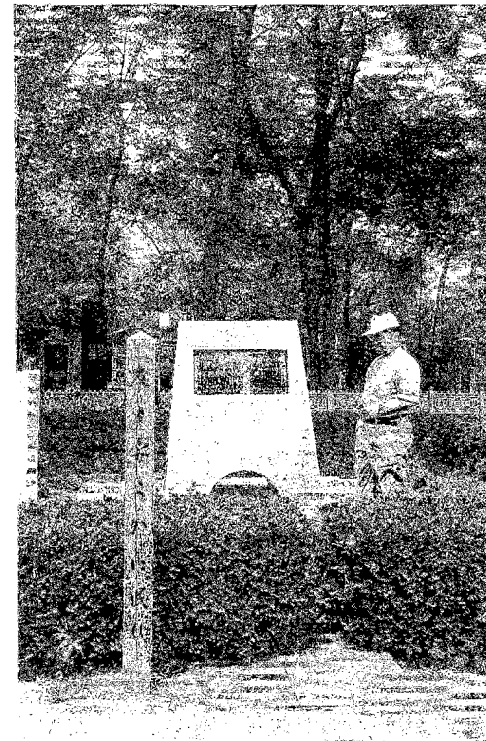
千野 境子

六月下旬の中央アジアは、すでに真夏のようだった。ウスベキスタンの首都タシケントの市街地にある、広大なイサム教団墓地の一角を占める日本人墓地は、じりじりと刺すような灼熱の太陽の下で、静まり返っていた。
「家族がここに眠れ」
剛に如まれば日本語を話さないと、一瞬、日本から何干と離れたユーラシア大陸の、もっとも奥深い地にいることを忘れたが、同行の通訳日さんが手荷物から線香とカンプ入り日本酒を取り出すのを見て、われは返った。
「それ、日本がずっと持つてきたんですか」
「そうですよ、僕はソ連で仕事をすることが出来たから、線香を必ず荷物に入れてきた。だって戦争は仕方ない、指图のためだったんだから。でも線香で祈りが終わったというのに、さらにこんな遠くまで連れてきて命まで落

ウズベキスタンとカザフスタンの国境に位置するタシケント。地元イスラム教徒居住地の一角にあり、鎮魂の歌が日・ウズベキ両国関係者の手で作られた



ウズベキスタン・タシケントにある日本人墓地。地元イスラム教徒居住地の一角にあり、鎮魂の歌が日・ウズベキ両国関係者の手で作られた



タシケントの中心地アムール・ティムール公園に近い歩行者天国。昨今の人気は意外カラオケで、若者が群がる。切な気なロシアのメロディーが流れていた

海なき国 新たな鼓動

ウズベキスタン
カザフスタン

帝国 シルクロード 社会主義 独立

中央アジアのウズベキスタンとカザフスタン。スタンはペルシャ語で国を意味する。2つのスタンには海がない。他国を通らなければ船に出られない国をランド・ロックド・カン트리と言うそうだが、中でもウズベキスタンは世界でもまれなダブル・ランド・ロックド・カントリーだ。
だがこの地が、それで世界から閉ざされたというわけではない。それどころか昔は、テンギス・ハーンやティムールが砂漠を、草原を駆け通り、勇壮な帝國を築いた。シルクロードが架えたことは周知の通り。やがて帝政ロシアが進出、それはソ連に取って代わり、2つのスタンは社会主義陣と変化する。
そのソ連も74年にして崩壊、両国にとって急劇の独立は1991年、翻じたのごとく訪れた。
いま市場経済化を掲げ、再び世界史の舞臺に現れつつある中央アジアの国々。どのような役割を果たすのか、その答えはこれからである。
(文と写真 千野鏡子)



タイルの装飾が見事なサルカンドのメドレセ(イスラム教の神学校)。いまではお土産屋さんが入っている

